Kyogei Presents

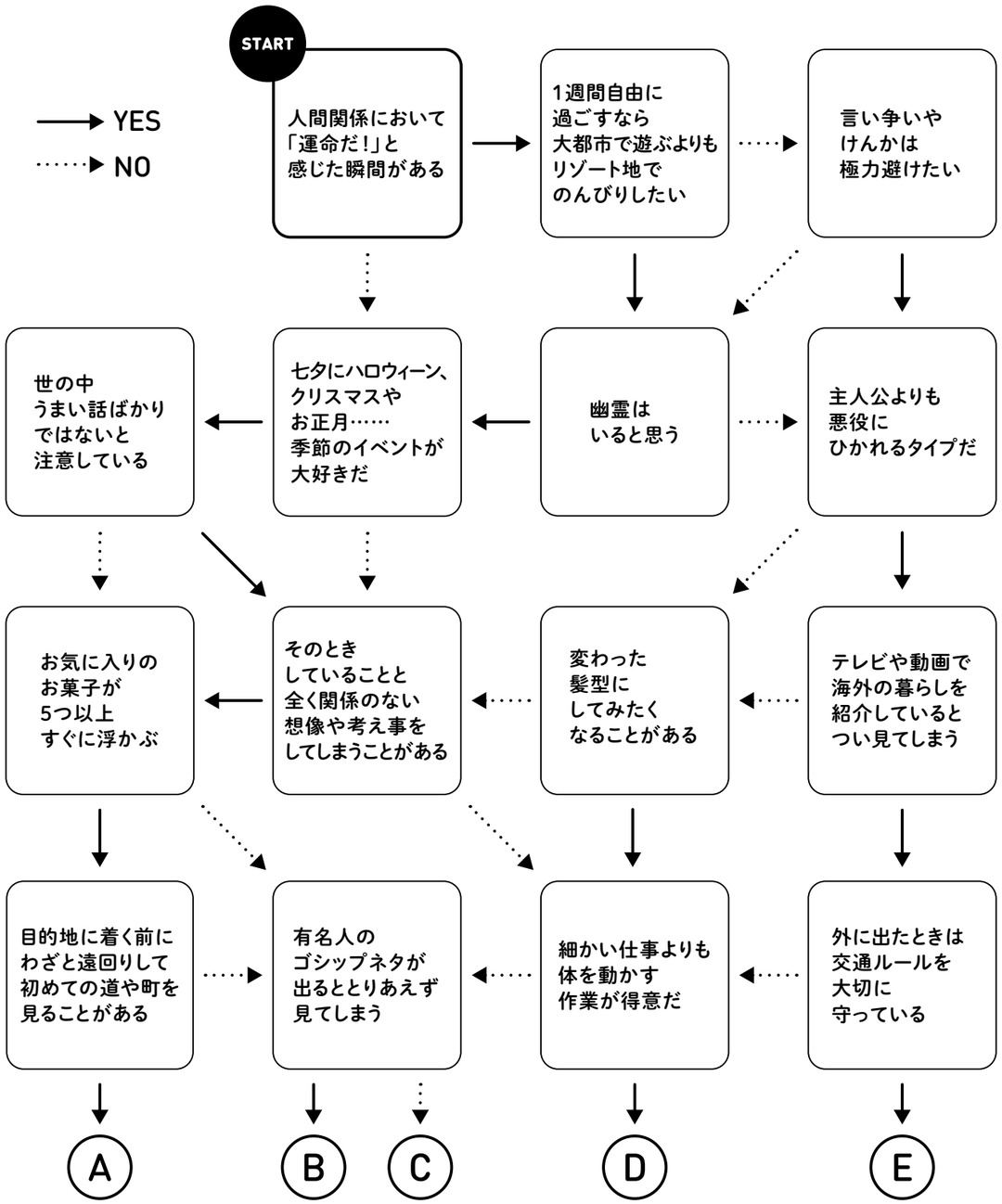
音楽診断

第12回

おすすめ名作バレエ編

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第12弾。
5つの名作バレエの中から、あなたにぴったりの作品をご紹介します。

監修・解説＝山田治生
Text＝Haruo Yamada



あなたへのおすすめは？

Ⓐ 夢の世界の旅物語
チャイコフスキー『くるみ割り人形』

［初演：1892年／サンクトペテルブルク マリインスキー劇場］

『くるみ割り人形』はチャイコフスキー（1840～93）の三大バレエの一つ。E.T.A.ホフマンの童話が原作となっている。クリスマス・シーズンの定番バレエである。「花のワルツ」など、おとぎの国で様々な踊りが繰り広げられる第2幕が見どころ。

クリスマス・イヴのパーティで少女クララはくるみ割り人形をもらう。真夜中、ネズミの大群とくるみ割り人形に率いられた兵隊人形たちが戦闘を繰り広げている。クララがスリッパを投げて、くるみ割り人形の窮地を救い、ネズミの大群にも勝つ。くるみ割り人形は、王子に姿を変え、おとぎの国にクララを招待する。おとぎの国では次々と歓迎の踊り（アラビアの踊り、ロシアの踊り、中国の踊り、花のワルツなど）が披露される。

Ⓑ 古典バレエの代表作
アダン『ジゼル』

［初演：1841年／パリ オペラ座］

アダン（1803～56）は、フランスのバレエやオペラの作曲家。彼の代表作である『ジゼル』は1841年に初演された。ハイネの「ドイツ古譚」のなかの伝説に基づいている。ロマンティック・バレエの先駆的作品である。

村娘ジゼルは、出会ったロイスに恋をしてしまうが、ロイスは実はアルブレヒト伯爵であり、バチルド姫という婚約者がいるのであった。真実を知ったジゼルは正気を失い、息絶えてしまう。後悔したアルブレヒトは、ジゼルの墓を参るが、そこには結婚前に死んだ娘たちの霊（ウィリ）がいて、通りがかった男たちを死ぬまで踊らせようとする。亡霊となったジゼルはアルブレヒトの今も変わらない愛を知り、彼をウィリたちから守ろうとする。

Ⓒ バレエの楽しさを堪能できる喜劇
ドリーブ『コッペリア』

［初演：1870年／パリ オペラ座］

ドリーブ（1836～91）はフランスのバレエやオペラの作曲家。パリ音楽院でアダンに学んだ。ドリーブの代表作である『コッペリア』は1870年に初演された。原作は、E.T.A.ホフマンの小説『砂男』。この小説は、オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』のもとにもなっている。

スワニルダの恋人フランツは、コッペリウスの作った自動人形コッペリアにそれとは知らず恋をしてしまう。嫉妬したスワニルダは、コッペリウスが留守にしている間に彼の家に忍び込み、コッペリアが自動人形であることを知る。帰宅したコッペリウスは、スワニルダが扮したコッペリアに翻弄され、コッペリアに会いに来たフランツも真相を知る。スワニルダとフランツは友人たちの祝福を受けて結ばれる。

Ⓓ 衝撃的な初演から20世紀の傑作に
ストラヴィンスキー『春の祭典』

［初演：1913年／パリ シャンゼリゼ劇場］

2021年はストラヴィンスキー（1882～1971）の没後50年にあたる。20世紀のクラシック音楽の巨人は案外、近年まで存命であった。『春の祭典』は、ストラヴィンスキーの三大バレエの一つであり、比較的初期の作品といえる。1913年のパリでの初演では、音楽や舞踊の斬新さゆえに音楽史上に残る大スキャンダルを巻き起こしたが、今では20世紀の傑作の一つとして広く親しまれている。

この作品では、太古ロシアの、春の到来とともに太陽神に乙女を捧げる原始的な儀式が描かれている。つまり、大地が目覚め、春が到来し、誘惑の儀式、春の踊り、賢者の行列、大地の踊り、乙女たちの神秘的な集い、いけにえの賛美、祖先の呼び出し、祖先の儀式などを経て、最後にいけにえの踊りに至る。

Ⓔ 見どころの詰まった恋物語
チャイコフスキー『白鳥の湖』

［初演：1877年／モスクワ ボリショイ劇場］

『白鳥の湖』もチャイコフスキーの三大バレエの一つ（あとの一つは『眠りの森の美女』）。チャイコフスキーにとって最初のバレエであった。白いチュチュを着て踊る、バレエの代名詞的な作品といえる。「情景」でのオーボエが歌う哀愁を帯びた旋律が特に知られている。

オデット姫は、悪魔ロットバルトによって白鳥に姿を変えられてしまったが、夜だけ人間の姿に戻る。王子ジークフリートは、オデット姫を愛するようになるが、王宮の舞踏会で、ロットバルトの策略によって彼の娘オディールをオデットと間違えてしまう。しかし、オデットは悲しみを乗り越え、ジークフリートをゆるす。ジークフリートとオデットは、ロットバルトを打ち負かし、魔法が解ける。そして二人は結ばれる。

山田治生（音楽評論家）

1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニーニ～大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人～ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の愉しみ方』（以上、アルファベータ）、編著書に『戦後のオペラ』（新国立劇場運営財団情報センター）、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』（アルファベータ）などがある。

イラストレーション：こばやしみさこ